

「衣笠城址を訪ねる」

明け方に心配された雨もなく、10月3日（火）に、講師 大貫昭彦先生のご案内をいただき、三浦半島の中央部にある、「衣笠城址」を訪ねて歩きました。前九年の役から後、三浦氏一族が築いた城址です。参加者22名で巡り、有意義な一日を過ごしました。



《大善寺の入り口で》

所在は衣笠城址内で、二の丸跡です。創建は天平元年（728）で、開山は行基。大貫先生の解説を聞く参加者。生涯学習西柴のピンクの旗が目立ちます。



《衣笠城の所在した付近》

衣笠城址案内図の前で講師解説、当時は山城で傾斜もあり面積は狭い。



《衣笠城址の地を踏みしめて》

この山城に立てこもって戦った、当時の武士たちの心情を、思い描きながら歩きました。



《満昌寺の境内で》

新編相模風土記稿に建久5年（1194）9月、頼朝、三浦大介追福のため草創とある。
寺宝 本尊は宝冠釈迦如来像、そのほか国重文の三浦義明像もある。

その境内の一角で、皆さん持参の茶菓子を・・・ちょっと一息。



《珍しい着生植物を見た》

途中の山合、一本の立ち木に珍しい形状をした植物が、講師の先生によると・・・南方系の植物でオーストラリア原産の鹿角シダ（びかくしだ）別名・・・蝙蝠ランともいう。気温10度以下では生きられない由。平べったく長く伸びた葉の先がギザギザになっていて、見た目も面白い。



《清雲寺、三浦為継の墓》

廟所の前で講師の解説。本堂の背にあり。五輪塔3基あり。

天仁元年（1108）衣笠の2代の城主、三浦為継死去し、その子義継が、父の武徳をしのんでこれを末代に伝えんがために清雲寺を建立したという。この寺は毘沙門天像と、滝見観音が有名。私たちが訪れた時も、像の撮影に業者が入っていました。